

令和6年12月25日(水)

妙高市役所402会議室

13:30～15:30

## 第2回妙高市史編さん委員会 次第

### 1. 開 会

### 2. 委員長あいさつ

### 3. 議 題

(1) 妙高市史編さん計画案のパブリックコメントの実施結果について

資料1 P1～P2

・「妙高市史編さん計画」

資料2 P3～P7

(2) 令和7年度の市史編さん事業の計画について

資料3 P8～P9

(3) 新たな市史の主要なトピックスについて

資料4 P10～P14

### 4. そ の 他

### 5. 閉 会

第2回妙高市史編さん委員会 配布資料一覧

| 資料番号 | 資料タイトル                        | ページ番号   |
|------|-------------------------------|---------|
| 資料1  | 妙高市史編さん計画案のパブリックコメントの実施結果について | P1～P2   |
| 資料2  | 妙高市史編さん計画                     | P3～P7   |
| 資料3  | 令和7年度の市史編さん事業の計画について          | P8～P9   |
| 資料4  | 新たな市史の主要なトピックスについて            | P10～P14 |

## 妙高市史編さん計画案のパブリックコメントの実施結果について

## 1. パブリックコメント実施までの経過

## ①市史編さん準備委員会の開催

○委員会の設置：令和5年6月20日

- ・第1回委員会 期日：令和5年7月20日  
内容：旧3市町村史の刊行状況と史資料の保管・収集状況の確認ほか
- ・第2回委員会 期日：令和5年10月19日  
内容：妙高市史の全体構成についての検討ほか
- ・第3回委員会 期日：令和6年1月16日  
内容：妙高市史編さん計画案報告書のとりまとめ

## ②市民アンケート調査の実施

- ・実施期間：令和5年9月20日から11月20日まで
- ・回答方法：用紙による回答とWebによる回答
- ・回答者数：344人
- ・市民が期待する市史の仕上がり

- ・写真や図表等を多く掲載したビジュアル的なもの。
- ・市の地域特性や市が誇る自然・文化・産業等を魅力が健在化しているもの。
- ・歴史の流れ（通史）がよくわかるもの。
- ・旧3市町村の歴史が偏りなく扱われているもの。
- ・古文書や考古資料等の史資料を多く紹介した専門性が高いもの。

## ③「妙高市史編さん計画案報告書」の作成及び提出

- ・報告書の提出：令和6年3月29日に委員長が市長ならびに教育長へ提出
- ・市史編さんの基本姿勢

- ・市民の参加・参画による市史編さんを目指します。
- ・市の特長や魅力がとらえられる市史を目指します。
- ・気軽に手に取って利用できる市史を目指します。
- ・分かりやすさと高い専門性を有する市史を目指します。
- ・市史編さんに合わせて史資料の保存、管理、公開の仕組みを整備します。

## ④市史編さん委員会における計画案の審議

○委員会の設置：令和6年5月27日

- ・第1回委員会の開催
- ・期日：令和6年7月25日

- ・議 題：市史編さん準備委員会で作成された「計画案報告書」を踏まえた市史編さん計画書（案）の審議
- ・主な修正点：編さん委員会委員の定数の修正（10人以内→15人以内）  
概算事業費の削除  
編さん組織図の改良

## 2. パブリックコメントの実施結果

### ①パブリックコメントの実施

- ・実施期間：令和6年9月17日から10月17日まで
- ・周知方法：市報9月号、市ホームページ
- ・閲覧場所：市役所本庁舎、妙高高原支所、妙高支所、生涯学習課

### ②パブリックコメントの結果

- ・提出件数：1件
- ・意見の要旨
  - 「市内の全集落を対象とした調査が一番重要で一番大変なことである。」
  - 「集落の記録を残すことが大変重要であり、市史編さんを通して資料の紛失や記憶の忘却を防いでほしい。」
  - 「住民からも主体的に資料の整理や記録の作成に関わってもらうのが良いと思う。」
  - 「板倉町史の集落編が参考になると思う。」
- ・計画の修正：なし
- 理 由：市史編さん事業に対する賛同、期待、提案を主とした意見であり、計画案の基本的な考え方と一致しているため。

## 妙高市史編さん計画

### I 市史編さんの目的

#### 1 市史編さんの意義

平成 17 年（2005）4 月に旧新井市・旧妙高高原町・旧妙高村が合併して誕生した妙高市は、北は海浜部をもつ上越市や糸魚川市、南は山岳地帯が広がる長野県の市町村と接しており、古来、海と山をつなぐ交通の要衝として開かれ、周辺地域との交流の中で地域文化を育んできた。また妙高山を地域の名山として心の拠り所とし、妙高山等が生み出す自然の恵みを農業や観光等の産業に活かすことで、今日に至る発展の基礎を築いてきた。

妙高市のこうした歴史や文化は、私たちが自らの地域に対して抱く誇りや愛着の基層を成すものであり、地域のアイデンティティの形成につながる重要なものである。歴史を学ぶことは、過去の出来事を通して私たちが生きている現在を知ることであり、先人たちの知恵や苦勞、成功や失敗を教訓として、これから進むべき方向を見つけ出すことに他ならない。

妙高市が誕生して 20 年が経過しようとしている現在、地域の連帯感や結束力を維持し、充実した市民生活を実現するためには、共通する歴史や文化を私たち一人ひとりが理解し、その中から見えてくる課題や可能性を見極め、持続可能な将来の道筋を考えていくことが重要となっている。事前のアンケート調査においても、多くの市民から市史編さん事業に賛同する回答が得られており、新たな市史編さんに対する高い関心や期待がうかがえる状況にある。

妙高市の歴史や文化を理解することは、市の将来をより良い方向に進めることに資することから、過去を映し将来を照らす鏡になるものとして、『妙高市史』を新たに編さんする。

#### 2 市史編さんの背景

新たに市史編さんを企画した直接的な背景としては、次の諸点が挙げられる。

- ・旧 3 市町村の自治体史刊行から古いもので半世紀が経過しており、刊行後の歴史を中心とした現代史の新たな部分について、関係者や関係資料が現存しているうちに記録としてまとめ、後世に残すことが喫緊の課題となっている。
- ・旧 3 市町村の自治体史刊行後に市の所蔵となった考古資料や古文書の調査、解読の進展によって、歴史の空白を埋める発見や従来の学説を覆す発見が相次ぎ、新たな歴史像を提示すべき時期が到来している。
- ・合併から 20 周年を迎えようとしている現在、旧 3 市町村それぞれのあゆみを一つにまとめ、妙高市の特長や妙高市らしさを捉え直すことが、将来を豊かなものとするために必要となっている。

### 3 市史編さんの目的

#### (1) 愛郷心やまちづくりへの参画意識の醸成

将来を担う世代に妙高市の歴史文化を正しく伝え、郷土に対する誇りや愛着を醸成するとともに、地域の持続可能な発展のための活動に主体的に参画する意識を高める。

#### (2) 各地域に伝わる史資料の継承

市内の各地域に伝わる史資料を可能な限り調査、収集するとともに、適切に保存、整理し、貴重な歴史遺産として次世代に継承する。

#### (3) 教育・文化の向上と地域の活性化

自然・歴史・文化・産業等の各視点から妙高市がもつ魅力や特性を引き出し、これからの教育・文化の向上や地域の活性化のために役立てる。

## II 基本方針

### 1 史資料の調査・保存・公開について

- (1) さまざまな種類の史資料（古写真、地域で発行した印刷物、行事の記録、方言、景観、地名等の身近なものを含む）を悉皆的に調査する。
- (2) 市内の全ての地域を対象に史資料の所在調査を実施し、地域の実情を把握するとともに、現在に至るまでの変化の過程を明らかにする。
- (3) 調査した史資料を効率よく保存、管理、公開していくための仕組みや体制を整える。
- (4) 注目度が高く、頻繁な利用が想定される史資料については、今後の活用を見込みを精査したうえで資料集を作成する。
- (5) 史資料の公開手法の一つとして、インターネットを積極的に活用する。

### 2 市史の内容について

- (1) わかりやすい用語や表現で記述し、写真や図表を多く用いる。
- (2) 学問としての専門性を保持しつつ、新たな調査成果に基づく新たな歴史の記述を目指す。
- (3) 歴史の流れや変化の画期を取り上げる通史に相当する部分を入れつつ、妙高市に特徴的な出来事や妙高市が誇る自然・文化・産業等に注目した特論に相当する部分を大きく取り上げた全体構成とする。
- (4) 全体構成の検討にあたっては、『妙高市歴史文化基本構想』（2018）において妙高市の地域特性として抽出された「交通の要衝（海と山を結ぶ）」、「妙高山」、「水と雪」等の視点や、それらに結び付く8つの関連文化財群（ストーリー）を有効に活用する。

### 3 市史の活用について

- (1) 通常の学術的な市史（以下「一般書」という。）とは別に、子どもたちが調べ学習や授業等で活用することができる普及書を編さんする。
- (2) 一般書及び普及書については書籍版とともに電子版を編さんする。
- (3) 電子版については書籍版を電子化したものに留まらず、市民がインターネット上で閲覧や書き込みができ、記事の編集に参加することができる形態での活用を検討する。

## III 内容

### 1 刊行の形態・部数及び規格について

刊行形態は書籍版と電子版の両方とし、書籍版の刊行部数については、電子書籍の普及が急速に進んでいる現状を鑑み、時代の趨勢や無償配布（寄贈）の必要範囲を勘案して刊行する段階で改めて検討する。

書籍版については一般書・普及書ともに、アンケート等をもとに次の規格を想定する。

○B5判

○1巻あたり300頁前後

### 2 全体構成及び巻数について

一般書の全体構成の柱については下表の四つを想定し、それぞれの柱ごとに1巻にまとめることを基本とする。ただし1巻の頁数が300頁を大きく超える場合については、その中をさらに分割することを検討する。

刊行順については下表の巻次の順を一つの目安とし、準備が整ったものから刊行していくこととする。

| 巻次  | 構成の柱（テーマ）     |
|-----|---------------|
| 第1巻 | 妙高山が育む暮らし     |
| 第2巻 | 信越の交流と暮らし     |
| 第3巻 | 水と雪に寄り添う暮らし   |
| 第4巻 | 暮らしの移り変わり（通史） |

普及書については一般書の内容を取捨選択して1巻にまとめることを基本とする。その全体構成や柱の立て方等については、一般書の全体構成や具体的な記載内容が明確になった段階で新たに検討する。

## IV 刊行計画

### 1 編さん期間及び刊行年度

市史編さん事業の中心となる一般書の編さん期間については、準備期間を含めて令和5年（2023）度から令和14年（2032）度までの10か年とする。その間の年次計画については下表のとおりである。

普及書及び電子版の編さんについては、学校現場を取り巻く状況や社会のデジタル化の状況を見極めたうえで、令和15年度から新たな体制を整えて取り組むこととする。

[25周年]

| 年度                 | 令和5 | 令和6 | 令和7 | 令和8 | 令和9 | 令和10 | 令和11 | 令和12 | 令和13 | 令和14 |
|--------------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|
| 準備委員会              | →   |     |     |     |     |      |      |      |      |      |
| 市史編さん委員会           |     | →   | →   | →   | →   | →    | →    | →    | →    | →    |
| 市史専門委員会<br>(編さん作業) |     |     | →   | →   | →   | →    | →    | →    | →    | →    |
| 一般書の刊行             |     |     |     |     |     |      | 第1巻  | 第2巻  | 第3巻  | 第4巻  |
| 資料収集・整理            | →   | →   | →   | →   | →   | →    | →    | →    | →    | →    |

### 2 編さん組織

市史を編さんする組織については次のとおりとする。

#### (1) 市史編さん委員会（15人以内）

市史編さん事業を推進するために、市史編さん計画の進捗管理や具体的な刊行形態等について協議、検討する。

#### (2) 市史専門委員会

市史編さん計画に基づき、専門的な立場から編さんに関する事項を総合的に企画、立案するとともに、史資料の調査、収集、整理、研究及び市史の執筆、編集等を行う。

市史専門委員会は編集委員、調査執筆委員、調査協力員で構成され、次の5つの分野を活動の枠組みとする。

①原始・古代    ②中世・近世    ③近代・現代    ④自然・民俗    ⑤文芸・文化財

#### ア 編集委員（12人程度）

各分野において史資料の調査、収集、整理、研究を主導し、市史の執筆及び全体の編集等を行う。

イ 調査執筆委員（必要人数）

編集委員が指定する事項を中心に史資料を調査、研究し、市史の執筆等を行う。

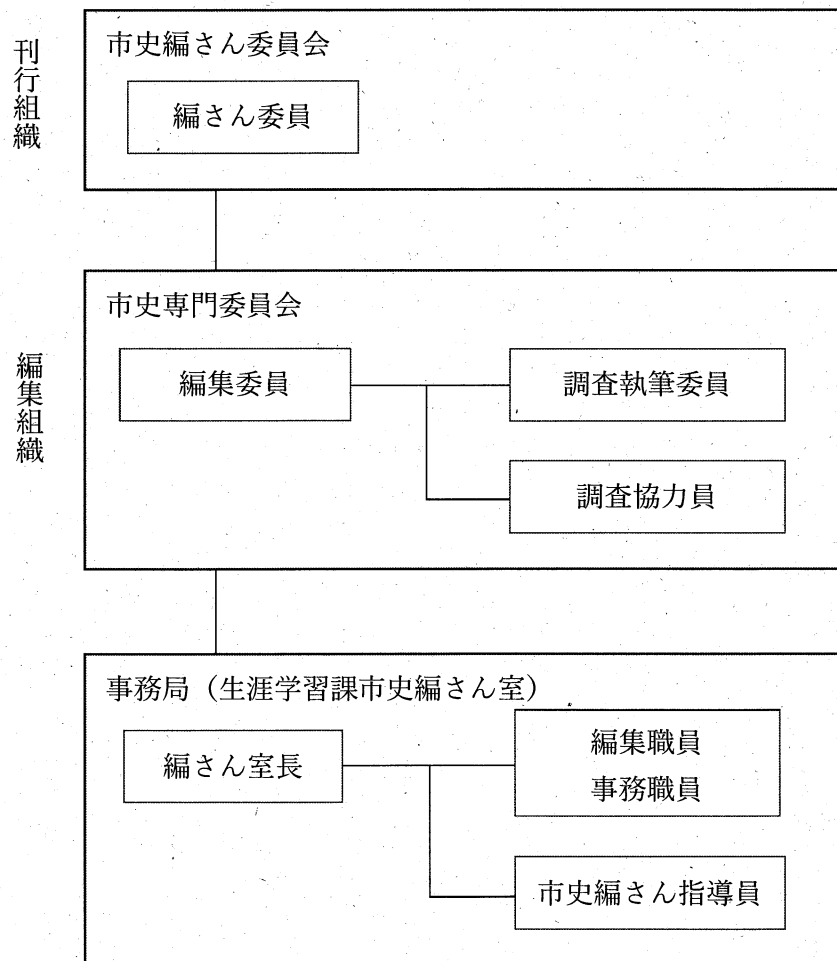
ウ 調査協力員（必要人数）

史資料の円滑な調査、研究等のために、現地調査の準備、調整、作業の補佐等を行う。

（３）事務局

市史編さんの事務局は、教育委員会生涯学習課市史編さん室とする。

市史編さんの組織図



## 令和7年度の市史編さん事業の計画について

## 1. 令和7年度事業の概要

- ・市史編さん委員会の開催
- ・集落調査を中心とした各種史資料の調査の実施
- ・市史専門委員会の設置及び市史編集会議の開催（執筆・編集作業への着手）
- ・部会別史資料調査の実施
- ・普及啓発活動（市民向け講座等）の実施

## 2. 市史編さん委員会の開催

- ・年1回、1月後半～2月前半の開催で調整する予定
- ・議題：進捗状況の確認、次年度の事業計画に関する協議・検討

## 3. 集落調査

## ○調査の目的

- ・集落内に埋もれている有形・無形の史資料の掘り起こし（所在状況の確認）
- ・聞き取り内容の記録化
- ・集落ごとの調書の作成

## ○調査の方法

- ・アンケート調査⇒聞き取り調査⇒現地調査（踏査、史資料実見）⇒専門調査⇒調書作成

## ○調査の進捗状況（R6.12.15現在）

| 年度  | 計画     | 実績                                                            |
|-----|--------|---------------------------------------------------------------|
| 令和6 | 65 集落  | 42 集落<br>（大鹿 6、名香山 4、杉野沢 1、上郷 1、鳥坂 11、<br>矢代 9、原通 8、泉 1、平丸 1） |
| 令和7 | 64 集落  |                                                               |
| 令和8 | 60 集落  |                                                               |
| 合計  | 189 集落 |                                                               |

## ○集落調査の課題

- ・執筆者への速やかな情報提供、専門調査への引継ぎ
- ・体制強化による調査の迅速化

## 4. 市史専門委員会の設置・運営

## ○市史専門委員会の設置

- ・要綱の作成、編集委員の委嘱（12名の予定）、調査執筆委員の委嘱（随時）
- ・編集委員の構成（案）
  - ①原始・古代：1名、②中世・近世：4名、③近代・現代：3名、④自然・民俗2名、
  - ⑤文芸・文化財：2名

### ○市史編集会議の開催

- ・編集委員全員による調査・執筆・編集に関する検討会議（年2回の予定）

### ○部会別史資料の現地調査

- ・部会ごとに計画・実施
- ・令和7年度は5部会×5回＝25回を予定

| 項 目        | 主な業務                                               |
|------------|----------------------------------------------------|
| 現地調査（一次調査） | 調査対象の選定、所蔵者との連絡調整、各委員（調査者）との連絡調整、現地調査、所蔵者への御礼ほか    |
| 資料整理       | 写真撮影、史資料の複写、簡易的な調書の作成、関連文献の収集、情報の整理と共有             |
| 専門調査（二次調査） | 所蔵者との連絡調整、専門家・研究機関等への依頼、現地調査、調査報告書等の作成依頼、所蔵者への御礼ほか |
| 史資料の受贈     | 受贈手続き、専用封筒等への入れ替え整理、目録の作成（データ化）、くん蒸、解説と翻刻          |

### 5. 普及啓発活動の実施

- ・「まなびの杜」との連携による市民向け講座等の実施
- ・市報（「市史編さんだより」）や市ホームページ等を活用した情報発信

### 6. 全体スケジュール

| 項 目        | 令和7 | 令和8 | 令和9 | 令和10 | 令和11 | 令和12 | 令和13 | 令和14        |
|------------|-----|-----|-----|------|------|------|------|-------------|
| 集落調査       |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 部会別史資料調査   |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 現地調査（一次調査） |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 資料整理・      |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 専門調査（二次調査） |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 史資料の受贈     |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 執筆・編集      |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 編集会議の開催    |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 原稿のとりまとめ   |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 原稿の編集      |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 普及啓発活動     |     |     |     |      |      |      |      |             |
| 市史の刊行      |     |     |     |      | 第1巻  | 第2巻  | 第3巻  | 第4巻<br>(通史) |

## 新たな市史の主要なトピックスについて

## 全体構成（案）

| 巻次  | 構成の柱（テーマ）     |
|-----|---------------|
| 第1巻 | 妙高山が育む暮らし     |
| 第2巻 | 信越の交流と暮らし     |
| 第3巻 | 水と雪に寄り添う暮らし   |
| 第4巻 | 暮らしの移り変わり（通史） |

## (1) 旧3市町村史では取り上げられていないトピックス

| 記載内容（案）                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 巻次                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| <b>○発掘調査が明らかにした妙高山麓の開拓史</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妙高山麓の発掘の調査成果<br/>調査遺跡数 市調査：47 遺跡<br/>県調査：13 遺跡</li> <li>・東日本最大級の高地性環壕集落（斐太遺跡）</li> <li>・県内最古級とされる2基の前方後円墳（観音平古墳群）</li> <li>・大和朝廷から下賜された装飾大刀（西俣古墳群・谷内林古墳群）</li> <li>・律令国家の地方支配の核となった郡役所（栗原遺跡）</li> <li>・集落・水田・寺院・居館から成る中世村落の全貌（高柳遺跡群）</li> </ul> | 第2巻<br>第3巻<br>第4巻 |
| <b>○律令社会の基礎を築いた渡来系集団</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北信濃から頸城郡へ進出した渡来系集団の足跡（6・7世紀の遺構と遺物）</li> <li>・東北経営のための中継地となった頸城郡</li> <li>・栗原遺跡出土の渡来人名墨書土器「柴原偕伎日（シバハラノハシキビ）」</li> </ul>                                                                                                                             | 第2巻               |
| <b>○妙高山麓の武士と馬</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩と馬を供給し合う信越の相互関係、頸城郡内の馬生産</li> <li>・信越国境を越えて活動する御家人、信越にまたがる荘園と牧のネットワーク</li> </ul>                                                                                                                                                                         | 第2巻               |
| <b>○善光寺信仰から生まれた妙高山信仰</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妙高山信仰の起源は善光寺信仰、山頂の阿弥陀三尊像はいわゆる善光寺式</li> <li>・妙高山は極楽浄土、1年に1度の参詣行事、木曾義仲の伝説と大先達の五位野氏</li> <li>・北信濃に深く根付く妙高山信仰、北信濃発祥説</li> </ul>                                                                                                                        | 第1巻               |

|                                                                                                                                                                                                                       |                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| <p>○上杉景虎の側室・妙徳院と宝蔵院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景虎、側室の妙徳院、宝蔵院を開基した俊海は同じ北条家の一族</li> <li>・宝蔵院は戸隠山顕光寺の別当を務めた俊海の時代に戸隠から分離・独立（戦国時代にはまだ寺院としての宝蔵院は存在しなかった）</li> </ul>                                        | 第1巻               |
| <p>○地形から生まれた産業と暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関田山脈の地形と砂利山の採掘</li> <li>・山間地の地すべり地形と棚田</li> <li>・扇状地の湧水と酒造り</li> <li>・西頸城山地の地形と千草石、石屋街の発展</li> <li>・笹ヶ峰高原の地形（湖成層の形成）と牧場・製材所としての利用</li> </ul>           | 第1巻<br>第3巻<br>第4巻 |
| <p>○交通網の整備と市街地の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧北国街道や駅を中心とした商店街の形成</li> <li>・幹線道路の整備と大型商業施設の進出、工場団地の形成</li> <li>・上信越自動車道の開通、新井ハイウェイオアシス（道の駅あらい）</li> <li>・北陸新幹線の開通、周辺の大規模リゾート開発、中心市街地活性化の動き</li> </ul> | 第2巻<br>第4巻        |
| <p>○時代の世相を映す公園</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期の都市公園（関川関所跡庭園、星野公園、経塚山公園等）</li> <li>・戦勝記念公園（加茂神社の征露記念公園等）</li> <li>・森林公園（斐太県民休養地、高床山森林公園等）</li> <li>・防災公園・親水公園（万内川砂防公園、矢代川水辺公園、十三川水辺公園等）</li> </ul>      | 第4巻               |
| <p>○企業誘致と産業構造の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出稼ぎの時代</li> <li>・企業誘致、工業団地の造成（新井工場団地、新井東部工場団地）</li> <li>・建設業、製造業、飲食・宿泊業等の事業所数の変化、従業員数の変化</li> <li>・農業従事者の減少、農村からの若者の流出</li> </ul>                        | 第3巻<br>第4巻        |
| <p>○スキー産業の発展と競技スキーの普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増加するスキー場、地元のスキー生産</li> <li>・スキー大会の開催と運営、各地域のスキークラブ・ジュニアスキー育成会</li> </ul>                                                                            | 第3巻               |
| <p>○変化する学びの環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの増加と教育環境の充実、学びの多様化、社会教育施設の整備</li> <li>・少子化と学校の統廃合、コミュニティスクールの導入</li> <li>・小規模特認校、妙高型イェナプラン教育</li> </ul>                                                  | 第4巻               |
| <p>○新たな農業経営形態の模索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模家族経営の限界、農事組合法人の設立、株式会社の設立</li> <li>・農産物の高付加価値化の動き、農業の六次産業化の推進</li> </ul>                                                                              | 第4巻               |

|                                                                                                                                                                                                         |                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| <p>○国際リゾート地へのあゆみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政府が主導した国際観光ホテル建設計画、赤倉観光ホテルの開業</li> <li>・ 温泉とスキーを主軸とした観光開発、バブル景気の活況</li> <li>・ 平成不況による観光施設の統廃合</li> <li>・ インバウンドを見据えた新たな観光開発の動き</li> </ul> | <p>第1巻<br/>第3巻<br/>第4巻</p> |
| <p>○妙高戸隠連山国立公園の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妙高大公園計画、上信越高原国立公園への編入</li> <li>・ 妙高戸隠連山国立公園の分離・独立、指定の事由、公園の管理計画</li> <li>・ 国立公園内の代表的な景勝地、妙高高原ビジターセンターの整備</li> </ul>                      | <p>第1巻</p>                 |
| <p>○証言でつづる昭和・平成の暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集落調査（聞き取り調査）の成果（対象集落数：189 集落＋廃村）</li> <li>・ 組織、慣習、行事、町並み等の変化</li> <li>・ 記録として残したい出来事、未来に残したい風景</li> </ul>                              | <p>第4巻</p>                 |
| <p>○妙高市の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合併前の旧3市町村、合併に向けた協議、合併式典</li> <li>・ 合併時の市の姿、総合計画等にみる新市を取り巻く課題</li> </ul>                                                                         | <p>第4巻</p>                 |
| <p>○妙高市の姉妹都市・友好都市</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姉妹都市：スロヴェニ・グラデツ市（スロベニア）、ツェルマット村（スイス）、シュルンス村・チャグンス村（オーストリア）</li> <li>・ 友好都市：東京都板橋区、大阪府吹田市、愛知県北名古屋市</li> </ul>                             | <p>第4巻</p>                 |
| <p>○愛されるふるさとの山・妙高山</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 越後富士と呼ばれる山容の成り立ち、山岳名の由来（諸説あり）</li> <li>・ 描かれる妙高山、歌われる妙高山、芸能の中の妙高山</li> </ul>                                                            | <p>第1巻</p>                 |

## (2) 新たな知見として書き加えられるトピックス

| 記載内容（案）                                                                                                                                                                       | 巻次         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <p>○太古から続く自然崇拝を今に伝える神社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 巨木の信仰（関川・下町天神社）</li> <li>・ 巨岩の信仰（関山・弁天岩、十二神社、秋葉神社、杉野沢・薬師堂）</li> <li>・ 山岳の信仰（妙高山・関山神社、南葉山・南葉神社）</li> </ul> | <p>第4巻</p> |
| <p>○考古資料にみる北陸系と信州系</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弥生時代の北陸系土器と信州系土器、古墳時代前期の前方後円墳と前方後方墳、須恵器の製作技術、横穴式石室墳の外観</li> <li>・ 各時代にみる集団・集落の動き、技術・文化の交流、対立構造等を反映</li> </ul> | <p>第2巻</p> |

|                                                                                                                                                                                                   |            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <b>○妙高山を霊山として仰ぐ宝蔵院の池泉庭園</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妙高山の山岳観と院主の権威を象徴する庭園</li> <li>・室町時代に連歌会の舞台となった庭園が存在</li> </ul>                                                                | 第1巻        |
| <b>○北国街道を往来した行列</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中山八宿と宿場の問屋、問屋の家伝史料を読む</li> <li>・加賀藩をはじめとする北陸諸藩の参勤交代行列</li> <li>・佐渡産金銀の御金荷輸送、問屋の苦労、助郷と余荷</li> </ul>                                    | 第2巻        |
| <b>○旅日記にみる北国街道</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大名・商人・文化人が残した旅日記</li> <li>・旅日記に登場する名所・旧跡（神社仏閣・本陣跡等）</li> </ul>                                                                         | 第2巻        |
| <b>○明治維新と宝蔵院の廃寺</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治の神仏分離、社号標の改削、関山権現から関山神社へ</li> <li>・失われた経済基盤、多額の借財、本地仏の秘匿、仏像・仏具の流出</li> <li>・神社と祭礼の継承</li> </ul>                                     | 第4巻        |
| <b>○近代化の原動力となった直江津線の開通</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大田切橋梁を建設した鹿島組、香嶽楼を開業して赤倉の観光地化を牽引</li> <li>・日本三大疎水の父・南一郎平、現業社が最初に手掛けた坂口新田トンネル</li> <li>・関山―長野間の鉄道開通で可能となった水力発電所の資材運搬</li> </ul> | 第2巻<br>第3巻 |
| <b>○渇水期の水不足を克服した水資源開発モデル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水力発電所をつなぐもう一本の関川</li> <li>・板倉調整池（鳥坂発電所地内）にみる農業と発電の共存・共栄</li> </ul>                                                           | 第3巻        |
| <b>○過去の災害を今に伝える歴史遺産</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の被害を記録した古文書や石碑</li> <li>・地下から掘り出された御坊の搗鐘（新井別院）</li> <li>・暮らしを守る万内川の砂防堰堤群と矢代川の霞堤</li> </ul>                                      | 第3巻        |

### (3) 旧3市町村史の記述や従来の歴史観をくつがえすトピックス

| 記載内容（案）                                                                                                                                                                         | 巻次         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <b>○関山神社の銅造菩薩立像</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現存作例が少ない百済系の仏像、その様式を法隆寺の仏像が継承</li> <li>・新羅仏から百済仏への評価の転換、中国南朝作例の可能性も</li> </ul>                                      | 第1巻        |
| <b>○上杉氏と信越国境の境目の城</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の城館遺跡の再検討、領主の城と村の城、城館と寺院</li> <li>・北信濃（飯山・野尻）を含めた上杉氏の越後防衛戦略、境目の城の管理</li> <li>・鯨ヶ尾城の廃城と鳥坂城の補強、城破りの手続き</li> </ul> | 第2巻<br>第4巻 |

|                                                                                                                                                                    |     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| <p>○宝蔵院の古文書が語る赤倉温泉開湯の裏側</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教性の保持か開発か、新温泉の開発問題で揺れた宝蔵院の院主たち</li> <li>・村の庄屋が主導、妙高山における最初の民間開発</li> </ul>                    | 第1巻 |
| <p>○善光寺参りと関所破り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越後における女手形発行の手続き、関川関所の出女の取り調べ</li> <li>・女性を救済する善光寺、善光寺参りの大流行</li> <li>・道中記にみる関所破りの実態、ある女性の旅日記</li> </ul> | 第2巻 |